作品名	京都の町並みから考える現代町家	作品番号	1/4
校名	宮城学院女子大学		
氏名	森谷 陽南子		

京都の街並みから考える現代町家

Modern Machiya from the cityscape of Kyoto

■建築データ

敷地面積：656.20㎡

建築面積：399.55㎡

各階面積

一階：399.55㎡

二階：266.92㎡

三階：99.9㎡

延床面積：766.37㎡

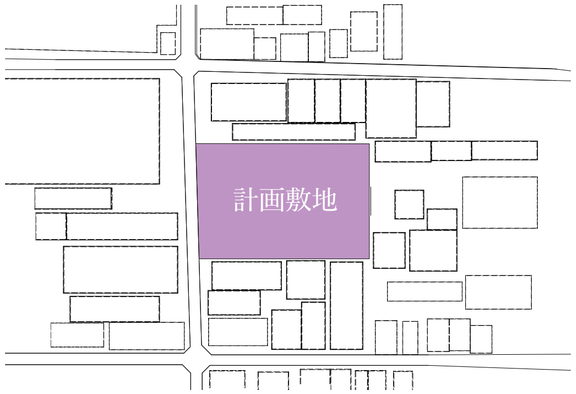
高さ：9.651m

構造：木造３階建

住戸数：全８戸

■計画敷地

計画敷地は京都市下京区の市街地にあり現在はマンションが２棟建っている。五条通りや地下鉄五条駅に徒歩でアクセスできるほか、歴史のある民家と比較的新しい住宅やマンションが混在しており、人の往来が多い地域である。



■設計の目的と背景

近年の京都市の旧市街地では、住宅需要の増加により、既存建築物が解体され高層マンションが建設されることが増えたため歴史のある街並みが見られる場所が減少しつつある。本計画では京都市の街並みの保全・継続のため、高層マンションに代わる、現代の生活に対応し街並みと調和する集合住宅を設計した。

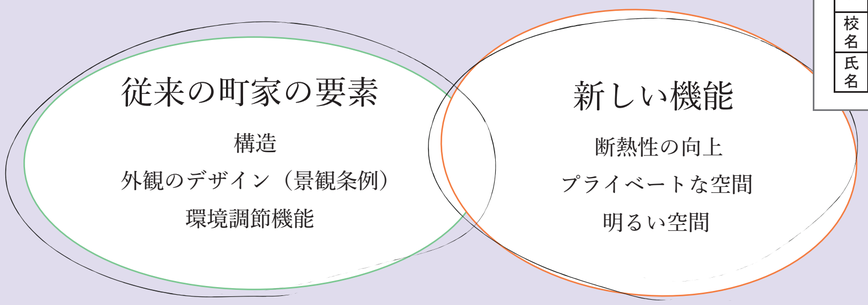
街並みに調和する建物のモチーフとしては、住職一体を体現し平安時代から残る京町家の意匠を取り入れる。また、京都市では建築物について独自のガイドラインが定められている。こちらのガイドラインについても調査しその意図を検討することで、より街並みと調和する住宅の提案が可能になると考えた。

作品名	京都の町並みから考える現代町家	作品番号	2/4
校名	宮城学院女子大学		
氏名	森谷 陽南子		

■コンセプト

現在の京都市内の現状と住宅需要を考慮し、一定以上の密度を確保しつつ住環境を整え、現代のライフスタイルに対応可能な内部空間と京都市の街並みに調和する外観を両立した集合住宅を提案する。

外観や意匠、プランは、京都市内に平安時代から残る住職一体の建築である京町家を参考に設計を行った。町と建物をつなげるツールとして住民が経営する店舗部分を設ける。従来のマンションやアパートのようなプランではなく、住戸ごとに異なる性格を持たせることで「現代町家」としての個性も生まれると考えた。



＝現代のライフスタイルに対応可能な新しい町家

■調査

【京都市の街区】

京都市の街区は平安京時代の条坊制によって碁盤の目のように区画整理された。その区画内で、間口の広さに対し課税するという税制が出来たことにより、間口が狭く奥行きのある京町家が建てられるようになった。

【京都市の景観に関するガイドライン】

・京都市は各地域の景観の特性に合わせて６つの美観地区に分けられており、本計画の敷地は旧市街地型美観地区に分類されている。
・建築物のデザイン基準では、屋根材の指定や外壁、屋根の色彩、高さなどが指定されている。すべての地区に適用される基準と、景観地区別に適用される基準がある。

→景観保全のための条例・ガイドラインではあるが規制内容が極めて細かいため、建築物の個性やデザイン性を引き出すことが難しくなってしまうと考えられる。

【京町家特有の意匠】

・表格子：主に道路に面する窓の外側に設けられる。店舗の種類によって細さや間隔が異なる。
・虫籠窓：二階に多く見られる、土を塗り固めた格子状の窓。
・通り土間
・坪庭：小規模な中庭。採光と風の通り道としての役割を持つ。

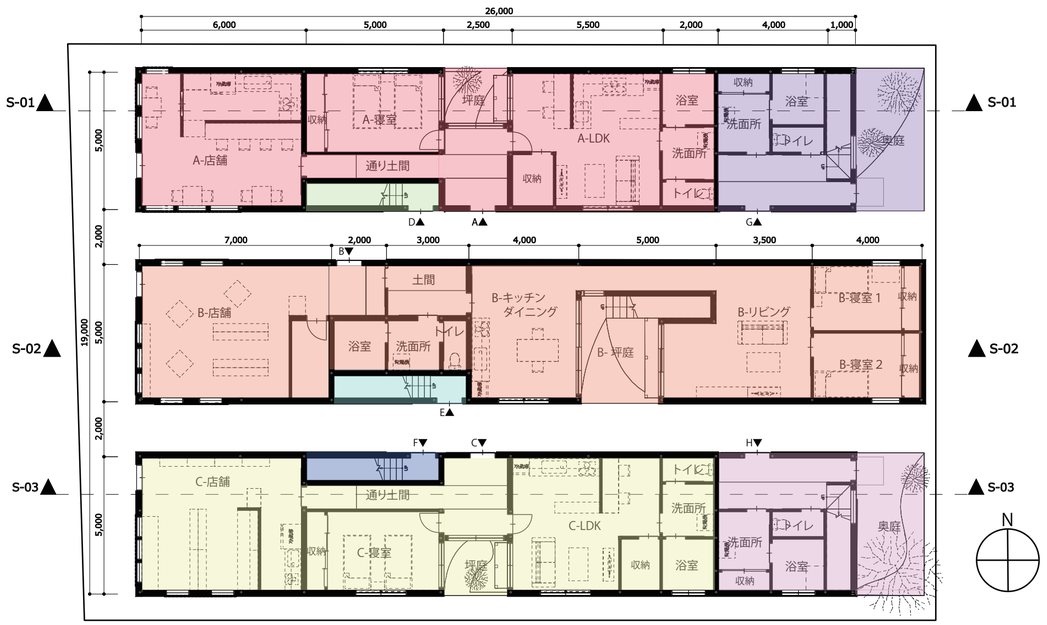
【京町家に住むことのメリット】

・坪庭や通り土間問言った風を通しやすい設計により夏の暑さを凌ぐ
・建具が引き戸でありことで気密性が低く、冬は結露しにくい
・表格子から採光すると同時にプライバシーの確保も可能

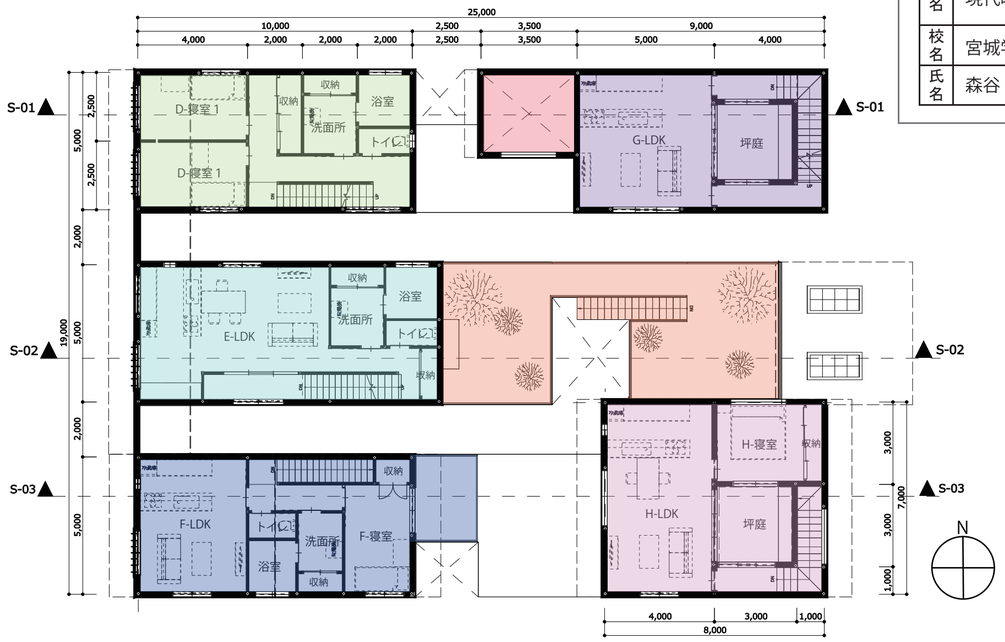
【京町家のデメリット】

・断熱性が低い
・壁が薄くプライバシーが万全ではない
・居間や台所の自然採光が不十分

作品名	京都の町並みから考える現代町家	作品番号	3/4
校名	宮城学院女子大学		
氏名	森谷 陽南子		

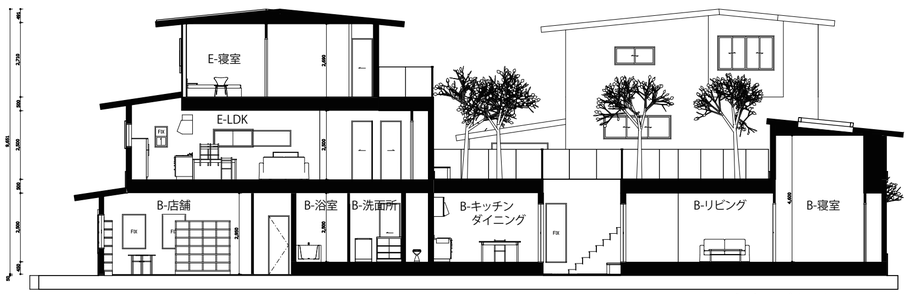


配置図兼1階平面図　S＝1/150

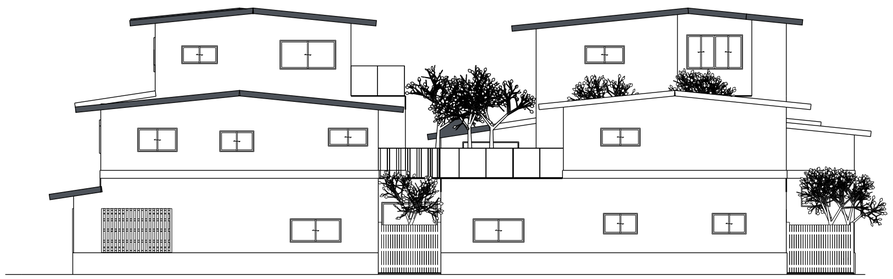


2階平面図　S＝1/150

S - 01断面図　S＝1/150



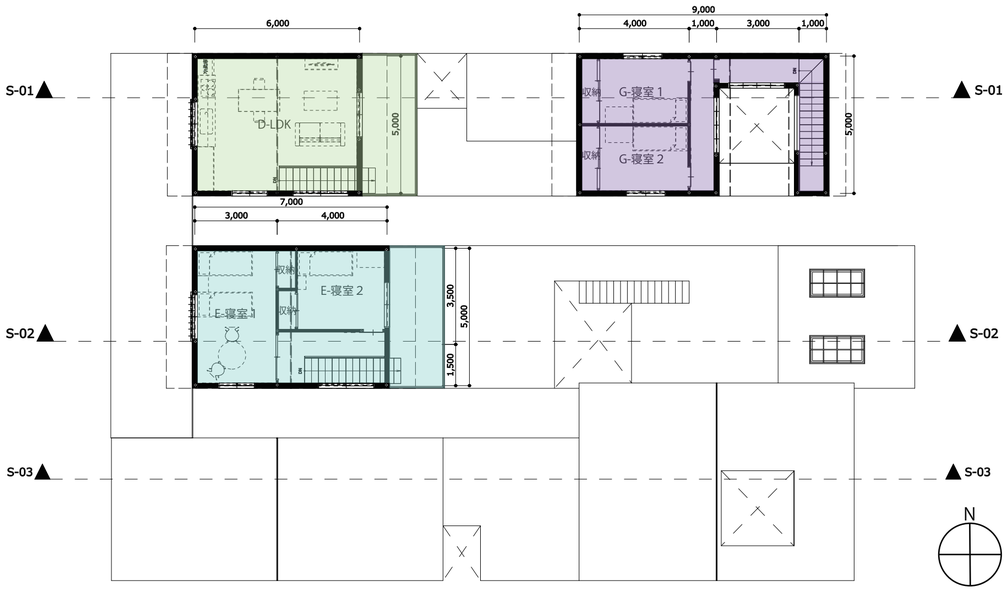
S - 02断面図　S＝1/150



西立面図　S＝1/150

南立面図　S＝1/150

作品名	京都の町並みから考える現代町家	作品番号	4/4
校名	宮城学院女子大学		
氏名	森谷 陽南子		



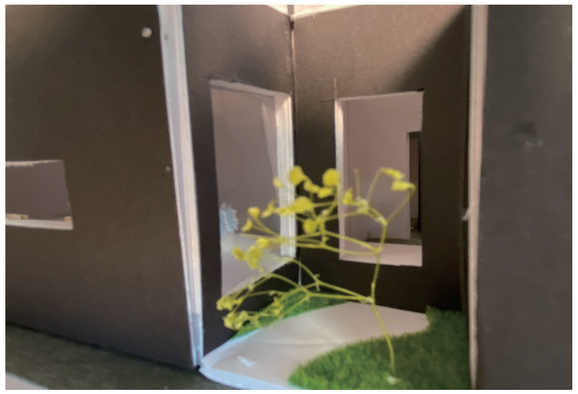
3階平面図　S＝1/150

S - 03断面図　S＝1/150

- 住戸 A
- 住戸 B
- 住戸 C
- 住戸 D
- 住戸 E
- 住戸 F
- 住戸 G
- 住戸 H

▶住棟の間の共用通路。住民はここから各住戸へアクセスする。
並んだ町家のように各住棟を配置することで、京都の歴史的街並みの再現を目指した。

▼住戸Gの坪庭。
三部屋に面しており採光も十分。



◀店舗部分と生活空間をつなぐ通り土間。
東西に抜けているため風の通り道にもなっている。

◀道路に面する場所に住民が経営する店舗を設けることで、住民と地域とのつながりが生まれる。